

イタリアの政治劇も再び幕開けか？

発表日：2014年12月17日(水)

～欧州の政治リスク再燃に注意～

第一生命経済研究所 経済調査部
主席エコノミスト 田中 理
03-5221-4527

- ◇ イタリアのナポリターノ大統領は来年早々に辞任する意向を示唆。上下両院議員と地方代表の無記名投票で次期大統領を選出する。このところレンツィ首相の支持率にやや翳り。次期大統領の選出は、首相の個人的な人気に支えられたイタリアの政治安定が揺らいでいないかを占う試金石となる。
- ◇ ギリシャで来年早々の再選挙と政権交代の可能性が高まっているほか、来秋に総選挙を控えるスペインでは改革に逆行する新興政党が躍進、ポルトガルでも政治スキャンダルが発覚。ロシア・新興国不安で市場がナーバスになるなか、欧州の政治リスクにも注意が必要。

イタリアのナポリターノ大統領は16日、来年1月13日にイタリアがEU議長国（半年間の輪番制）をラトビアに引き継いだ後に大統領職を辞任する可能性があることを示唆した。2013年2月の総選挙後に政権が発足できず政治的な混乱に見舞われていたイタリアでは、同年5月のナポリターノ大統領の任期満了を前に次期大統領の選出手続きに入ったが難航。政局混迷による危機を回避するため、紆余曲折の末、主要政党がナポリターノ大統領の再任を支持し、続投が決まった。大統領の任期は7年だが、同大統領は予てより政治的な安定や選挙制度改革の行方などを見守ったうえで任期途中で退任する意向を伝えていた。

大統領の選出は上下両院と地方議会の代表による投票で行われる。上院議員630名、下院議員319名、20州の地方議会で選出された地方代表58名の総計1,007名が投票権を持ち、3回目までの投票では3分の2以上（672名以上）の賛成、4回目以降は2分の1以上（504名以上）の賛成が必要となる。投票は1日に2回行われ、選出されるまで投票を繰り返す。投票は無記名で行われるため、党議拘束が弱く、党内で票が割れることも珍しくない。

今年の2月に若手・改革派のレンツィ首相が誕生し、イタリアの政治情勢は落ち着きを取り戻したが、同首相は与党・民主党内の支持基盤が弱く、個人的な人気に支えられ政治的な安定を保ってきた。だが、ここにきてレンツィ首相の支持率にもやや翳りがみられる。来年早々にも行われる可能性が高い次期大統領の選出手続きは、レンツィ政権の政治基盤が揺らいでいないかを占う試金石となる。

ギリシャで次期大統領の選出が出来ずに総選挙と政権交代の可能性が高まっているが、今のところ他国への波及懸念は封じ込められている。各国の体質強化やEUの安全網整備が進んだことや、国債QEが控えていることが安心材料となっていることが大きい。ただ、来秋に総選挙を控えるスペインでは財政再建・構造改革に逆行する新興政党が世論調査でリード、同じく来秋に総選挙を控えるポルトガルでは前首相が脱税・汚職疑惑で逮捕されるなど政治スキャンダルが相次いでいる。各国で政治リスクが意識されやすい状況にあり、逆オイルショックや新興国不安とともに、金融市場の動揺を誘う一因となりかねない。

以上